

大災害は 市役所の 実力テスト

講師：
総社市長 片岡聡一 氏



参加無料
要事前申込

片岡聡一（かたおか そういち）氏 略歴
昭和34年生まれ。内閣総理大臣公設第一秘書、
行政改革・沖縄北方担当大臣大臣秘書官等を経て、
現在、総社市長、
マラソンとピアノと料理づくりが好き。

講演概要

平成30年7月西日本豪雨災害。総社市も未曾有の大災害に見舞われた。7月6日午前9時45分、前日からの雨により、災害対策本部を設置。その時よもやこのような災害になるとは思ってもいなかった。午前9時市内を流れる高梁川の水位が避難判断水位の10.3mを超え、一抹の不安が頭をよぎった。水位は急激に上昇し、12mを超えたとき決壊を覚悟。千人いや二千人の命が奪われると腹をくくったが、自身のツイッターで「逃げてくれ」と発信し続けた。ツイートをみて、ひとりでも動いてくれたらその人の命は救えるという必死の呼びかけだった。情報が錯綜する。高梁川が越水し、川に人が流されたという情報が飛び込んできた。消防職員3人を含む20人が濁流に飲み込まれた。市内各地区での浸水。どの情報も危機的だった。さらに追い打ちをかけたのが、下原地区にあるアルミ工場の水蒸気爆発である。爆風により、115世帯が全壊と聞いた。「2次爆発のおそれがある。すぐ逃げろ」と指示し、避難用のバスを送り出した。瞬時の判断が事態を左右する切迫した状況だった。私は脇目もふらず、被災地の復旧に邁進した。「有事の際は、法律・条例を破れ」、「決断は10秒以内で、責任は自分がとる」、「公平・平等の原則は誰ひとり助けられない」、私が自らに課した3つの掟を実行に移していった。

総社市は、全国的にも稀な「大規模災害被災地支援条例」を制定している。この条例により、多くの職員が被災地に赴いてきたが、今回は被災地となった。窮地を救ったのは支援の輪だった。7月9日には高校生千人が市役所へ集結。ボランティアの中核となって活動を続けてくれた。支援の輪は、中学生や大学生にも広がり、延べ1万5千人に及ぶボランティアの方に助けてもらった。これまで支援した被災地からも本当に多くの支援をいただいた。「支援力」は「受援力」であると確信した。

災害という有事は、多くの市民の生命や財産を守りきれるかという市役所の実力テストだ。我々市役所は、この大いなる大災害という実力テストを乗り切ったと自負している。

日時：2019年12月12日（木）14時40分～16時10分

場所：岡山商科大学7号館782教室

主催：岡山商科大学学会

お問合せ：岡山商科大学産学官連携センター TEL.086-252-0642 FAX.086-255-6947
E-mail.sangakukan@po.osu.ac.jp

FAXまたはお電話でお申し込みください。

FAX.086-255-6947

12/12 講演会参加申込書(締切 12/11)

「大災害は市役所の実カテスト」

メールの場合：sangakukan@po.osu.ac.jp まで。

ふりがな		
ご氏名	ご参加人数	人
ご住所 〒		
TEL	FAX	
E-mail		
ご年齢	歳	ご職業
備考		

ご記入いただいた情報は、岡山商科大学からの各種連絡、情報提供のために利用するほか、講演会参加者の実態調査・分析のために利用することがあります。

特長のある3学部4学科であなたの夢を実現します。

- 法学部 法学科) 公務員試験に対応!
- 経済学部 経済学科) 理論と実践による地域創生人材の育成!
- 経営学部 経営学科) 後継者・起業家・企業リーダーを育成!
- 経営学部 商学科) フィールドスタディで地域に貢献!



社会科学系総合大学
学校法人吉備学園

岡山商科大学

お問い合わせ
お申し込み

